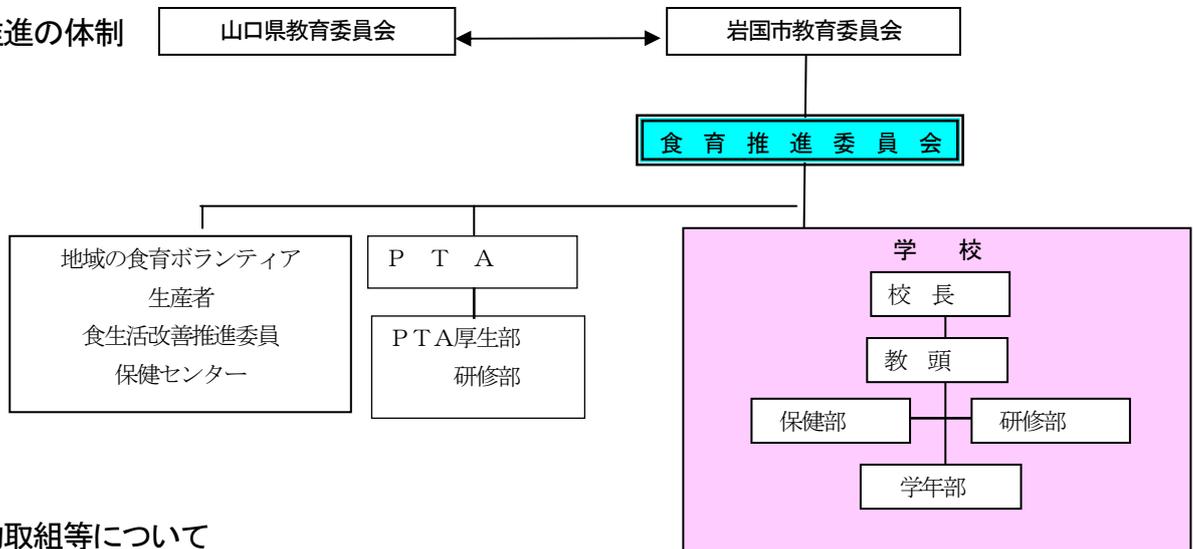


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山口県
推進地域名	岩国市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校と家庭、地域との連携による食に関する指導の充実のための取り組み

1 第一回食育推進委員会の開催(5/25)

食育推進委員に「食に関する指導の全体計画」を示し、家庭、地域、学校が連携しての食育の取り組みについての話し合いを行った。

2 食育だより・保健だより等を通じての普及活動

毎月、学校で行っている食育の取り組みや食の情報を、家庭に伝えた。また、家庭からの連絡欄を設け、食について情報交換の場とした。

3 個別指導

アレルギー調査を全家庭で実施し、連絡を取りながら給食での対応を行った。

4 食生活改善推進委員と連携した夏休み親子料理教室の実施(7/30)

間食の内容がジュース、スナック菓子、甘いお菓子が多い実態から、親子料理教室を実施した。

また、ジュースに含まれている砂糖を実際に量り、体験する実習を行った。

(テーマ) 栄養たっぷりおやつを作ろう！

～カルシウム・食物繊維が豊富なおやつ作り～

(参加者) 親子30組 68名



夏休み親子料理教室

5 岩国市主催の「朝食メニューコンテスト」の参加

6年生全員が、岩国市主菜の朝食メニューコンテスト「野菜を使ったおかず」に応募した。2名が二次審査に参加した。

2名が入賞、学校賞を受賞した。



岩国市朝食メニューコンテスト

- 6 PTA主催による給食試食会の実施(10/15)
岩国市の地元食材を使用した献立で、給食試食会を行った。

- 7 第一回学校保健委員会の実施(10/15)
朝食で野菜が不足しているという実態から、食育講演会を開催した。
(演題)野菜足りちよる？朝から野菜をおいしく食べよう！
(講師)岩国市保健センター 管理栄養士 田吹早苗先生



第一回学校保健委員会

- 8 PTA主催による食育講演会の実施(11/8)
野菜に親しむことを目的として、食育講演会を開催した。
(演題)野菜っておもしろい！
(講師)ベジタブル&フルーツマイスター 柳井さつき先生
(対象)保護者・児童・地域の方々・教職員 約90名



食育講演会

- 9 PTA主催による親子料理教室の実施(11/14)
野菜がたっぷりとれる朝ごはんの親子料理教室を行った。
(テーマ)親子で朝ごはんを作ろう～野菜たっぷりの朝ごはん～
(講師)料理研究家 樺山絹子 先生
食生活改善推進委員の方々
(参加者)親子24組 55名



秋親子料理教室

- 10 第2回学校保健委員会の実施(12/3)
児童保健委員会が、望ましい食事の大切さをペープサートで発表した。また、今年度の食育の取り組み、食生活に関するアンケートの結果を、学校医、学校薬剤師、保護者、教職員に報告した。

- 11 地域と連携した5年生総合的な学習の時間の取り組み
地域の生産者を指導者として迎え、米作り(もみまき・田植え・稲刈り・脱穀)を行った。
もみまき(5/12) 田植え(6/4) 稲刈り(10/16) 脱穀(10/23)



収穫した米を使って、地域交流の里の方々を指導者として迎え、岩国寿司を作った。(1/21.22)



- 12 地域と連携した6年生家庭科の取り組み(2/2.5)
地元のケーキ屋の山口先生に指導を受けながら、チョコレートを作り、お世話になった先生方にプレゼントをした。



テーマ2

各教科等における食に関する指導の充実のための取り組み

1 食生活アンケート実施による実態把握

児童の食生活アンケートを4月に実施し、朝食摂取状況、起床時刻や就寝時刻、間食についての実態把握を行った。2回目の調査を11月に行い、成果と課題を把握した。

2 食に関する指導の計画作成

各学年毎に、食に関する指導年間計画を作成した。

3 教科等における食に関する指導

各学年で各教科において、食育に関する視点を持った授業の取り組みを行った。

また、栄養教諭が、実態をもとに発達段階に応じた食育の授業を行った。

1年生生活科「野菜っておもしろい！」



2年生生活科「野菜を育てよう」



3年学級活動「給食のひみつ」



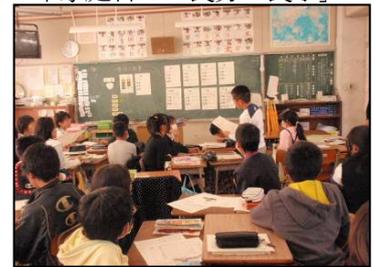
4年総合的な学習の時間「おやつ」



5年学級活動「パワーアップ朝食」



6年家庭科「一食分の食事」



4 給食時間における指導

① ランチルーム指導

計画的に、各クラス毎にランチルームで指導を行った。

- (1) 給食の栄養 (2) かむ大切さ (3) 朝食の働き
- (4) カルシウムと飲み物の砂糖 (5) 地元食材と食材の産地

② バイキング給食の実施

各学年で1回、食の自己管理能力を育てることを目的とし、バイキング給食を実施した。



5 児童委員会での取り組み

① 保健委員会

虫歯予防週間に、虫歯予防のためによくかむこと、甘いものを食べすぎないことなどの全校放送を行った。また、ペープサートで食育劇を作成し全校放送、第二回学校保健委員会で発表した。



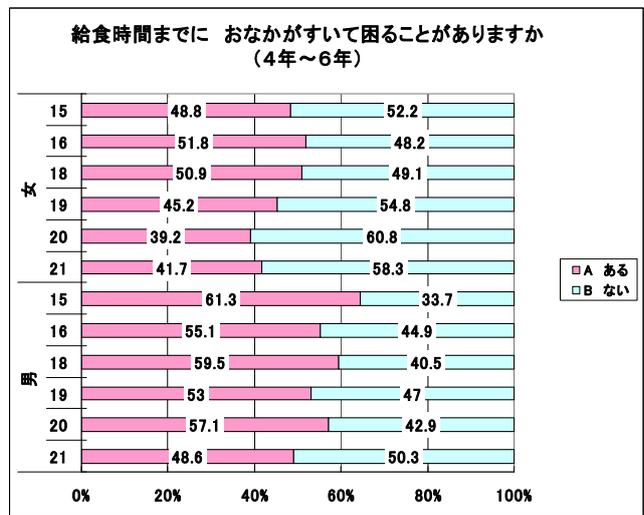
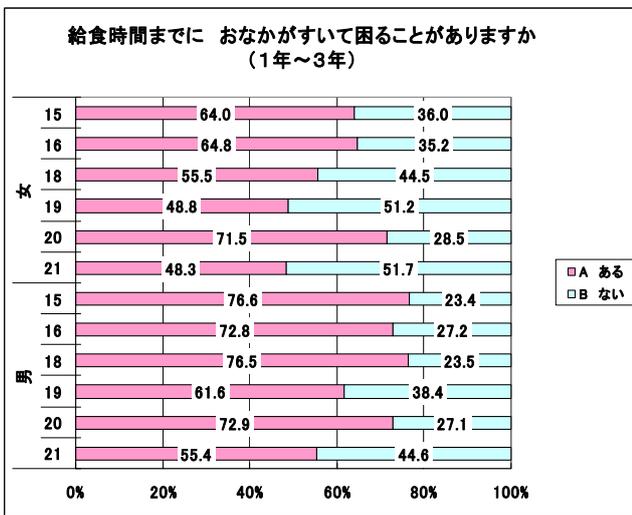
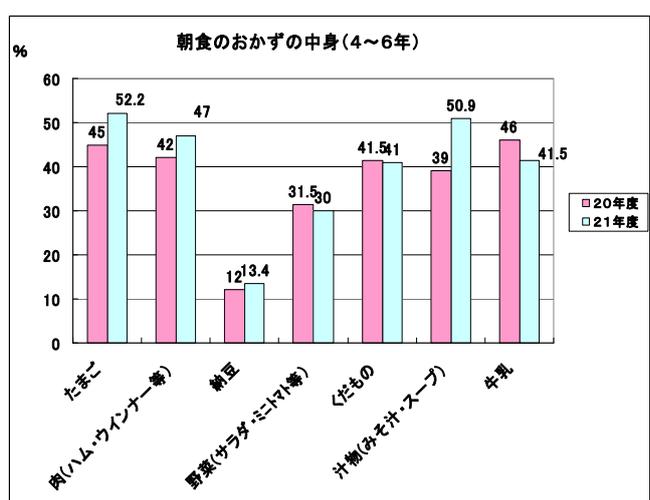
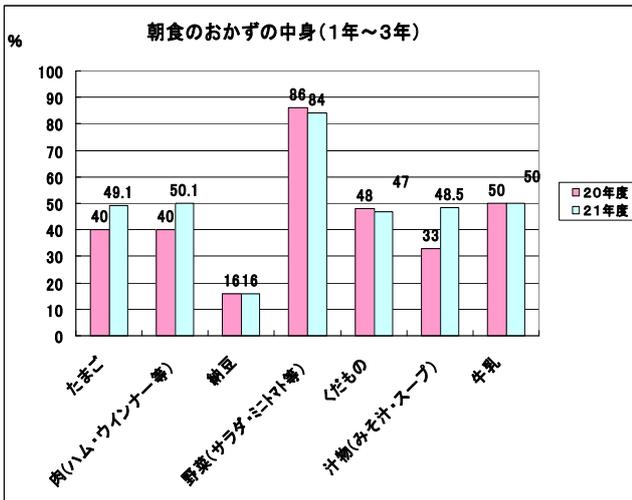
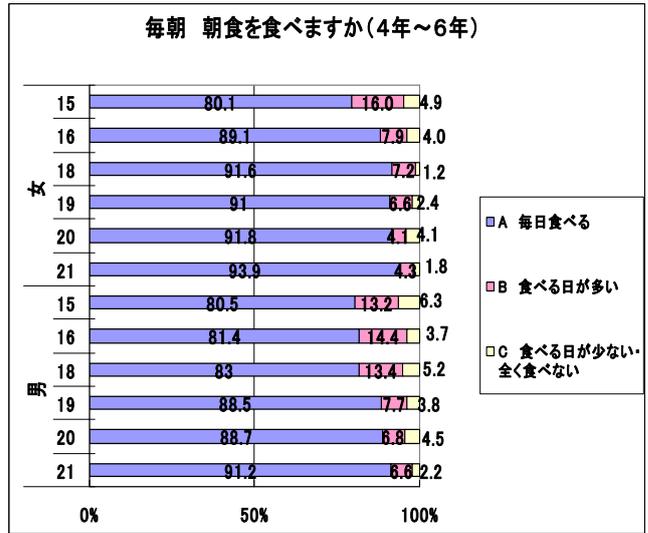
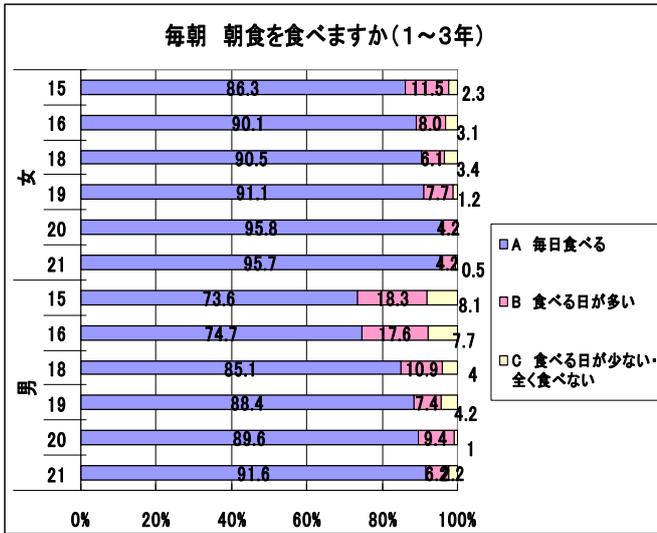
② 給食委員会

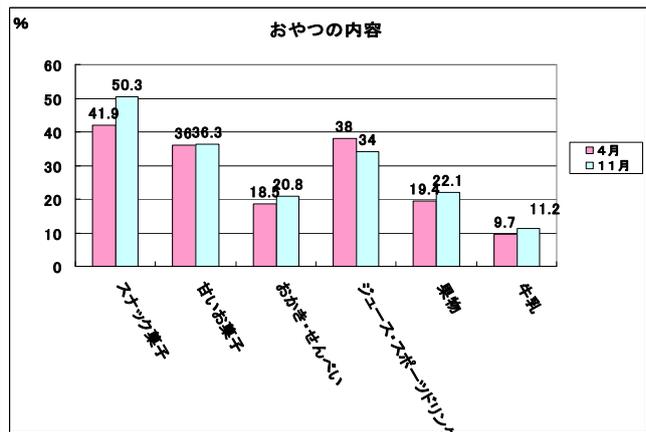
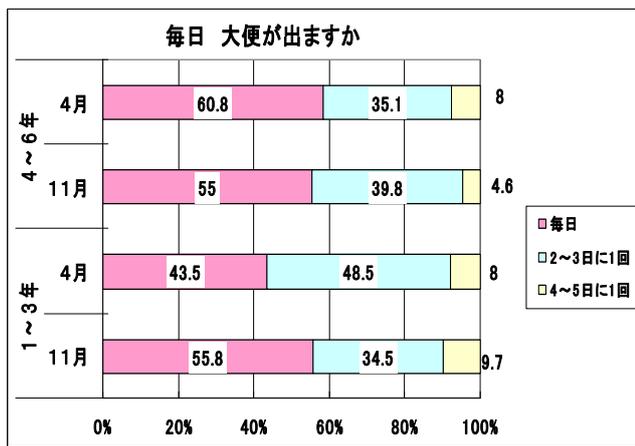
食に関する標語を掲示し、食の関心を高める取り組みを行った。毎日の給食時間に、給食の内容、地元食材について等の放送を行った。給食週間には、給食に関する行事の企画・運営を行った。



テーマ1～2に共通する具体的計画

1. 食生活に関するアンケートより（11月実施）





朝食摂取率が男女とも上昇しており、特に男子が90%を超えたことから、朝食指導の成果がみられる。朝食のおかずの充実、給食時間までの空腹の減少から、朝食の内容が充実してきたことが見られる。おやつについては、今年度「砂糖」「飲み物の取り方」「カルシウム」について重点的に指導した。その成果か、ジュース・スポーツドリンクをとる児童の減少、また、牛乳摂取の増加が見られた。睡眠については、高学年になるにつれ夜型傾向が見られる。また、大便については、下学年では毎日排便がある児童が増えているが、上学年では減少している。このことから、望ましい食習慣と排便についての指導を継続して行う必要がある。

2 食育リーフレットの作成

朝食摂取の実態、食育の取り組みのリーフレットを作成し、岩国市内小・中学校、岩国小学校全家庭に配布した。

数字で変化のあった事項について

- 朝食摂取率の変化 91.5% (平成20年7月) → 93.1% (平成21年11月)
- 給食残菜量の変化 2.2% (平成21年3月) → 3.0% (5月) → 1.6% (12月) → 1.5% (2月)
- 米飯給食の実施回数 55.3% (平成20年度) → 週3回 (平成21年度12月)

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 食生活アンケートを継続して行うことにより、児童の実態に即した指導を行うことができています。
- 今年度新たに「各学年毎の食に関する指導年間計画」を作成することにより、学校における食に関する指導の共通理解ができ、体制が整い、発達段階にあわせた食に関する指導を効果的にスムーズに行うことができています。
- 食育推進委員会で、生産者、地域のボランティア、保健センター、保護者、学校関係者が食育について話し合い、情報交換を行い、また、学校、家庭、地域が連携して食育を進めていくことにより、学校、地域の実態を理解し、またコミュニケーションが深まり、ネットワークの強化につながった。

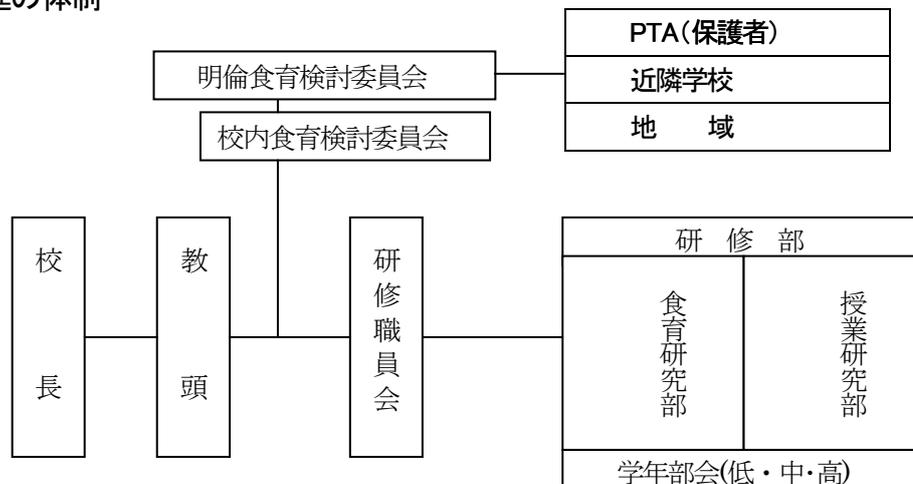
今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 朝食摂取率は上がってきており、朝食の内容が充実してきている。朝食を摂っていない児童への指導が課題である。
- 朝食の大切さに加えて、望ましい生活リズムについても指導していくことが必要である。
- 各教科等における食に関する指導が定着するのに、継続した取り組みが必要である。
- 継続して食育を進めていくために、中学校との連携を深めていきたい。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山口県
都道府県名	長門市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1

各教科等における食に関する指導を充実するための方策

1 食に関する全体計画、年間指導計画の見直し、整備

- ・発達段階に応じた学級活動年間計画の作成(食に関する6つの視点の位置づけ)
- ・各教科における食に関する指導計画の作成(食に関する6つの視点の位置づけ)

2 食に関する授業の実践

(1) 研究授業

第4学年 学級活動 「1日のスタートはよい朝ごはんから」

○食育の視点

- ・朝食をとることの大切さやよいとり方を理解することができる。(食事の重要性)
- ・1日を気持ちよく始めるために生活リズムを整え、望ましい朝食の習慣を身につけることができる。(心身の健康)



第1学年 学級活動 「たべものとなかよくなろう」

○食育の視点

- ・食べ物の名前がわかり、食べ物に興味・関心をもつ(食事の重要性・食品を選択する能力)
- ・嫌いな食べ物でも、努力して食べようとする。(心身の健康)

(2) 各教科における食に関する授業

- ・教科、学級活動、総合的な学習の時間等で計画にそって食に関する授業を行う。
- ・担任が行う食に関する指導資料の提供とコーディネイターとして関わる。
- ・教材開発をしながら食に関する理解をより深め、興味関心を引き出す。

(3) 授業公開の開催

・11月10日授業公開を実施する。全学年食に関する指導の授業を行う。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 第1学年 学級活動「たべものとなかよくなるうパート2」 | 第4学年 学級活動「おやつのおもてなしを考えよう」 |
| 第2学年 学級活動「すききらいせず食べよう」 | 第5学年 家庭科「作っておいしく食べよう」 |
| 第3学年 学級活動「ふるさとの食べ物」 | 第6学年 理科「からだのつくりとはたらき」 |
- ひまわり 生活単元「きせつの思い出 たからばこをつくろう」



(4) 給食時間の指導

- ・1学期はマナー・衛生(気持ちの良い食べ方・衛生に気をつける)
- ・2学期は栄養・食文化(食事の大切さを知る・食文化や地域の食べ物を知る)
- ・3学期は感謝・健康づくり(健康な生活について考える・食べ物や人に感謝して食べる)
- ・時間内に食べられない児童の個別指導
- ・配膳指導
- ・給食に使用している地場産物の実物を見せ食べ物に関心を持たせる



(5) 給食委員会の活動

・「給食委員会だより」の発行

ことば遊び えいよう 食育スローガン パート2の発行。

- え えいよう考え おいしいごはん
- い いただきます。ごちそうさまは感謝の気持ち
- よ よくかむと頭のはたらきよくなるよ
- う うんどうと食事のバランス元気な体



・豆運び大会

・給食ありがとう集会 テーマ ～感謝～

給食指導の目標である「感謝の心」をテーマに給食を作って下さる調理員や食べ物などについて感謝の気持ちを待つ集会の実施。給食ができるまでのビデオを見たり調理員の話や聞くことで、毎日の給食指導に生かす。

テーマ2 家庭地域への効果的な普及啓発をおこなうための方策

1 家庭、地域を対象とした研修会の開催

(1) 市教育委員会主催の夏季講習会において食に関する講演会の実施

- ・テーマ 学校給食と子どもの食生活 ～学校給食をとおして見えてくるもの～
- 講師 京都市教育委員会 指導主事 尾松広明

【内容】今の子どもたちの「食」の背景と基本的な生活習慣の大切さについて
また、学校給食を活用しての食育の進め方について

(2) 保護者と児童(4・5・6年)を対象に講演会の実施

- ・テーマ 「健康的な生活習慣を身につける」

～子どもができること・保護者ができること・学校ができること～

講師 宇部フロンティア短期大学 溝田美苗

【内容】健康とは、生活習慣とは、生活リズムとは・・・健康的な生活習慣が、生涯の宝物となる。そのために、朝ごはんを食べること、自分で何か作ることができるようにしておくことがとても大切である。ワークシートにより自分の朝食のバランスを振り返った。



・テーマ 「命」

講師 針間産婦人科 助産師 針間幹子

【内容】命が芽生えることは凄いことで、今ある命をいただいたことに感謝することの大切さ。また、正しい食事をし
て元気な命を作ること。

(3)「これだけは、しっかりまもろう！5つの約束」の作成・配布

・学力向上と生活習慣について家庭での生活習慣、学校での学習習慣
について基本的なことを共通理解し取り組む。

家庭に配布に当たっては、各学年で指導を行い、自分の名前をきちんと
書き、自分の物として家庭にもち帰らせる。



2 給食試食会の実施

・年間3回、学校給食の実態を知らせ、今、学校で取り組んでいる食育や学校給食に対する理解を更に深め
てもらい、望ましい食習慣の形成につながっていくことをねらって、全家庭を対象に取り組んでいる。今年度
は、参加人数も増え、アンケートの結果「食」への関心が高まっていることがわかる。

【保護者の感想】

- ・給食を食べる様子を見て、改めて家の食生活を考え直さなければと思った。 ・家の食事は野菜が足りないと思いました。作るときバランスよく
作りたい。
- ・子どもにどのくらいの量を食べさせればよいのかよくわかった。 ・食器の持ち方、姿勢面をもう少し家でも指導していきたい。
・家では食べないおかずをペロリと食べているのが不思議だった。

3 親子料理教室

- ・ 弁当の日に向けて、弁当作りをテーマに親子料理教室を実施する。
- ・ 弁当箱の容量と詰め方をポイントに指導するため、
自分の弁当箱を持参し詰めることにより、より身近な
ものになるように取り組んだ。



4 学校保健委員会

・テーマ 基本的な生活習慣の確立をめざして ～早寝、早起き、朝ごはん～
講師 臨床心理士 中村津峰子

【内容】食事の場面がおろそかになると、家庭は崩壊する。食の文化は家庭が中心。家庭は幹、学校は枝葉。

5 学級PTA 活動

・夏休みを前にして、お昼ごはんを自分で作ってみることをテーマに、5年生学級 PTA で「ある日の昼ごはん」の親子
クッキングを実施する。

6 就学児童とその保護者で親子クッキングの実施

- ・学校給食について理解するため、今学校で取り組んでいる食育について説明する。
- ・学校給食一食分を親子で調理して試食をする。
学校給食の量について確認をし、何でも食べる事の大切さや食事のマナー、感謝の心
を育てる事について指導をする。



7 近隣校との連携

- ・学校保健委員会等における指導助言
- ・食生活実態調査等を持参し課題等について指導する。
その中で、朝食について実演をしながら指導を行う。

「かんたん(^o^）大切(^o^）朝ごはん」

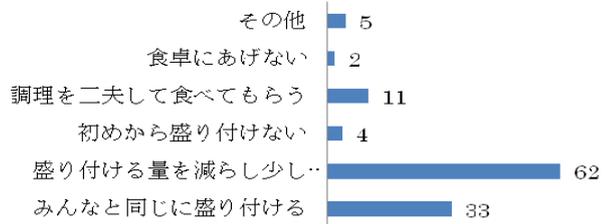
・生活リズムとして、朝ごはんを大切にし、食べてから出すまでが食事です。毎日便座に座り排便の習慣をつけよう。

8 食育バンザイ・保健だより・学校だよりの発行

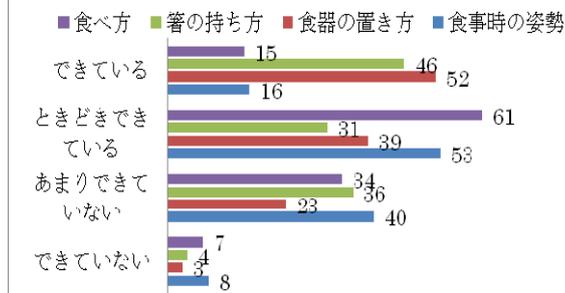
・学校から家庭へ、学校が取り組んだ食に関する行事、実態調査の結果、給食の様子や課題などを学校からのお知らせとして発行する。

食に関する実態調査【保護者】

家庭でお子さんの嫌いな食べ物についてどのように対応していますか



お子さんができていると思われるマナーはどのようなものがありますか



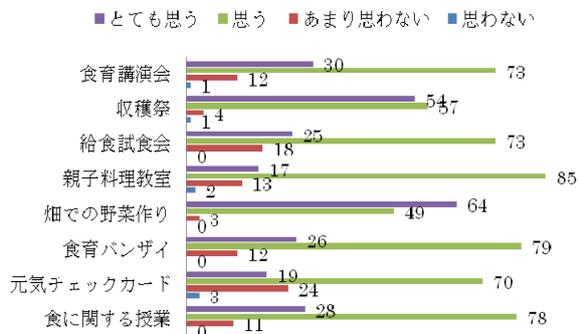
【考察】

マナーは給食時間に全教職員が共通理解をして指導をしているが、子どもたちが身につけるには家庭とも連携をとって言い続けることが必要である。正しいマナーを知っていないためにできていない子どももいる。また、なぜ正しいマナーが大切なのか理解させ指導をしていく必要がある。

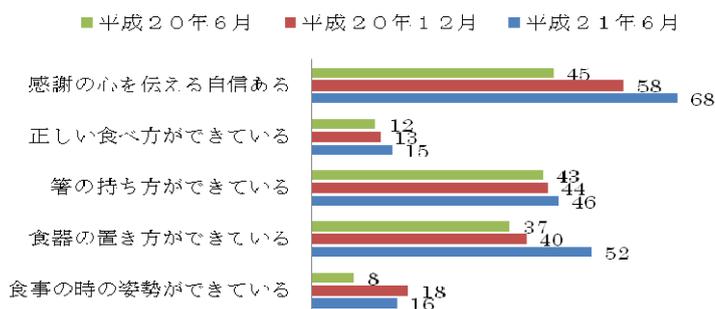
【考察】

給食では子どもたちが苦手な食べ物でも、おいしく食べられるよう味付けや調理方法を工夫している。家庭でも何とか食べさせるように工夫の様子がわかる。嫌いな食べ物だから食卓にあげないではなく、何でも食べられるようにしておくことが大切であることを家庭と連携をとって

学校で取り組んでいる活動は食育に役立っていると思う



保護者の実態 (%)



お子さんの健康や食生活への興味・関心はありますか



【保護者の声】

- ・好き嫌いなくなんでも食べてくれるようになりました。本人もがんばってくれました。学校での食育の勉強のおかげ、更に、食への関心が深まったような気がする。
- ・食事をきれいに食べるということは、子どもころのしつけが、そのまま大人になっても変わらないように思うので、気を付けています。最近少したくさん食べるようになった。
- ・野菜嫌いでしたが、先日の講演の【ま・ご・は・や・さ・し・い】を聞いてから自分なりに頑張れるようになりました。大きな挑戦変化だと思います。
- ・「いただきます」「ごちそうさまの」の意味が分かり、色々興味を持って「食べる」「つくる」ができるようになった。

テーマ3

体験活動を通じた各地域の産物、食文化等の理解を促進するための方策

1 地域の方の指導による餅米作り

- ・6月の田植え、10月の稲刈りと脱穀、11月の餅つき明倫感謝デーと、米作り体験を地域の方の指導と交流を通して学び、感謝の心を育てる。



2 郊外学習

- ・地域を知るため各学年で実施し、食に関する指導に生かす。

- 1・2年生→鯨捕鯨発祥の地「鯨の館」、三隅で生産されるブルーベリー栽培の見学。見学したことを生活科で生かす。
- 3・4年生→みのりの丘(野菜・いちごの栽培)、毎日飲む牛乳工場の見学。牛乳が学校に届くまでを理解する。



- 5・6年生→赤米、米カントリー、給食で飲む牛乳工場の見学。見学したことを社会科で生かしまとめる。

3 「今が植え時、旬の野菜」の取組

- ・各学年で旬の野菜を畑に植え、苗のこと旬の野菜のことについて学び育てる。
- ・5、6年生は「わけぎ」を一人一鉢植え、家に持ち帰り育て、家庭科との関連で、みそ汁作りの材料とする。我が家のみそ汁作りの発表会をする。
- ・植えた野菜を使って、家庭科や生活科で調理実習を行う。

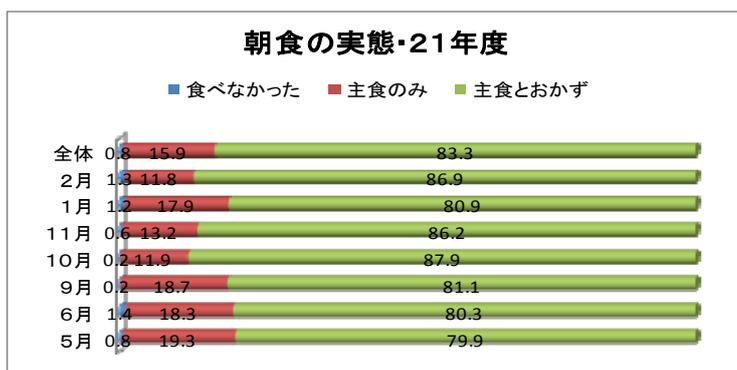
テーマ1～3に共通する具体的計画

1 栄養教諭と養護教諭の連携

(1) 元気チェックカード実施

- ・基本的な生活習慣や食習慣の実態把握をするため、年間7回(5月、6月、9月、10月、11月、1月、2月)月曜日から日曜日の一週間「元気チェックカード」により、起床時間、排便、朝食、心の様子など実態調査する。

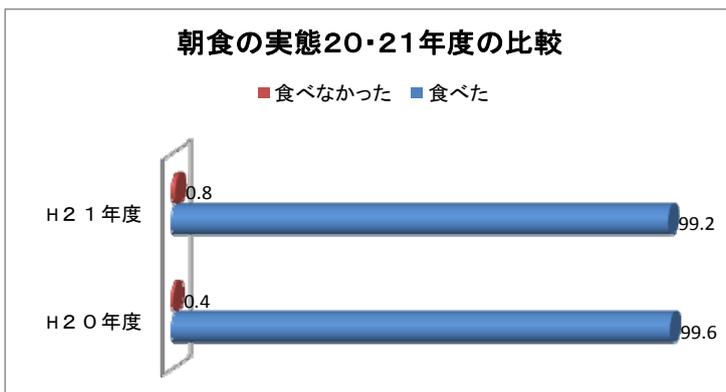
【元気チェックカードの結果から・朝食の実態】



【考察】

今年度は一歩踏み込んで朝食の内容(主食とおかず、主食のみ、食べない)を調査した。4月に比べると10月は主食とおかずを食べてきている人数が多くなってきている。特に9月の運動会の練習時には、朝食の必要性について全教職員で共通理解し指導した。今後も継続して指導を行い、主食とおかずの必要性和食べる量についても指導をしていきたい。

食べない児童は、家庭とも連携をとり、給食日より等で啓発していきたい。



【朝食の考察】

- ・各月とも一週間の実態調査をしているが、食べていない児童の生活習慣（寝る時間・起きる時間）を見ると朝起きる時間がおそいために、朝食が食べられない生活リズムを繰り返している。また、1月、2月はインフルエンザの流行により、朝食が食べられなかった児童もいた。20年度より0.4%食べない児童が増えているが、インフルエンザによるものと考えている。

食べていない児童については日頃からちょっとした声かけをして、食べてくるように意識付けをしている。

また、養護教諭や担任とも連携を取り継続的に指導をしている。

朝食の内容が気になるが菓子パンを食べてくる児童には、主食としてのパンと菓子パンの違いなどを指導しながら、主食としてのパンを食べてくることの大切さを指導している。

今後も実態を把握しながら家庭には、朝食を取るには「ちょっとした努力」が必要なことを知らせ、児童が食べない習慣をつけないように継続して指導していきたい。

(2)個別指導

- ・肥満傾向児童、アレルギー疾患児童の保護者に対して個別相談の実施。

保護者と直接話すことで、家庭での様子、学校での様子が理解できとても有意義な指導ができています。年間2回の実施、おやつの様子や生活リズム、運動量など振り返らせる資料やチェックカードの提示も行い、より理解が得られるように取り組んでいる。

数字で変化のあった事項についてご記入ください。

- ・給食の残食 4月2%→2月 0.5% ほとんどない状態である。
- ・朝食の内容で主食とおかずを食べてくる児童が5月79.9%→2月86.9とふえた、主食のみの児童が減った。
(元気チェックカードの結果から)
- ・米飯給食の回数は週4回を維持。白ごはんを中心に口中調味に心がけ、日本型食生活の推進に努める。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・教育活動全体の中で、食に関する領域や内容を全教職員でもう一度見直し、6つの食に関する指導の観点の位置づけができた。
- ・学級活動をもう一度見直し、発達段階や系統性を考慮した食に関する指導計画を作成することができた。
- ・教育課程の中で食と関連を示す年間計画を見直し整理することで、効果的に指導を行うことができた。
- ・通知票の中に(行動の記録の中)食育としての項目を位置づけ、意識して指導することができた。
- ・給食時間の個別指導により、時間内に食べることができ残食率が低下した。
- ・学校給食を理解して頂くために、家庭と連携をとり、親子料理教室1回、給食試食会年間3回実施し、食への関心が広まった。
- ・養護教諭と連携して行う「元気チェックカード」また、朝食の授業などを通して、朝食のあり方(内容)について子どもたちが意識するようになり、主食とおかずを食べてくる児童が増えた。
- ・肥満児童の保護者に対して養護教諭と個別指導を行うことで、家庭の様子、学校の様子等連携をとることができ効果的に指導をおこなうことができた。少しずつではあるが肥満度が下がってきた。
- ・校外学習等を通して食への関心を更に高める機会となった。
- ・食事の量、マナー、きもちのよい配膳の仕方など給食から食習慣を学ぶことができるようになった。
- ・授業や集会活動等を通して「食」に対して関心を持つようになった。
- ・心や体の健康のために食べる事は大切なことだと思う児童が増えた。
- ・旬の野菜を育て調理実習や家庭に持ち帰り調理することで食べ物への関心が深まった。
- ・「感謝の心」や「食事のマナー」が確実に身についてきた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・ 年間計画に沿った効果的な指導を継続し、深めていくこと。
- ・ 保護者、地域との連携を行事等を通して広げ深めていくこと。
- ・ 食育が学力向上にどのようにかかわっていくかを、「これだけは、守ろう！5つの約束」を核にして、児童の姿を通して追求していくこと。
- ・ 児童自身が自分の食生活に問題意識を持ち、実践へとつなげていけるように、給食時間を大切にして、計画的に指導すること。
- ・ 当たり前のことが当たり前ででき、身につくように、指導を継続すること。
- ・ 確実な児童の実態に即した指導を行うこと。(実態調査をいかに活用し生かしていくか)
- ・ 子どもの食と生活習慣を家庭に押しつけるのではなく、大切なことなのでやってみようとな納得してもらいながら家庭へ広めていくこと。

食に関する調査・「感謝」「マナー」を重視したアンケートのまとめ

対象者2～6年の児童と全保護者(家庭数)を対象に実施

アンケート項目	平成20年6月	平成20年12月	平成21年6月	平成22年1月
きれいな食べものはない	15	17	15	16
給食で嫌いな物が出て食べる	93	96	97	99
おうちで嫌いな物が出て食べる	56	55	50	39
給食の時、最後の一粒まで残さず食べますか	72	79	82	83
「いただきます」の意味を知っていますか	69	83	62	93↑
「ごちそうさま」の意味を知っていますか	49	67	56	85↑
家の食事の時「いただきます」をいつも言う	70	70	68	61↓
家の食事の時「ごちそうさま」をいつも言う	74	74	72	72
あなたは食事の時次のことができますか				
食事の前に手を洗う	49	53	60	53↓
正しい姿勢で食べる	39	34	46	40↓
正しく食器を置く	72	70	73	81↑
正しく食器を持つ	67	60	74	85↑
正しく箸を持つ	54	54	51	51
かわるがわる食べる	36	34	40	39
残さず食べる	64	77	86	97↑
正しい食器の置き方を知っている	79	82	98	100
正しい食器の持ち方を知っている	88	93	96	100
朝食の様子	平成20年度		平成21年度	
	5月	2月	5月	2月
朝食をしっかり食べた	86.2	90	—	—
ごはんとおかず	—	—	79.9	86.9↑
朝ごはんを食べた	99.6		99.2	
アンケート項目(保護者)	平成20年6月	平成20年12月	平成21年6月	—
食事の時正しい姿勢で食べる	8	18	14	
正しく食器を置く	37	40	45	
正しく食器を持つ	43	44	40	
正しい食べ方ができる	12	13	13	
子どもへの感謝の心を伝える自信がとてもある	6	6	7	
々	45	58	58	
健康や食生活にとてもある	—	60	48	

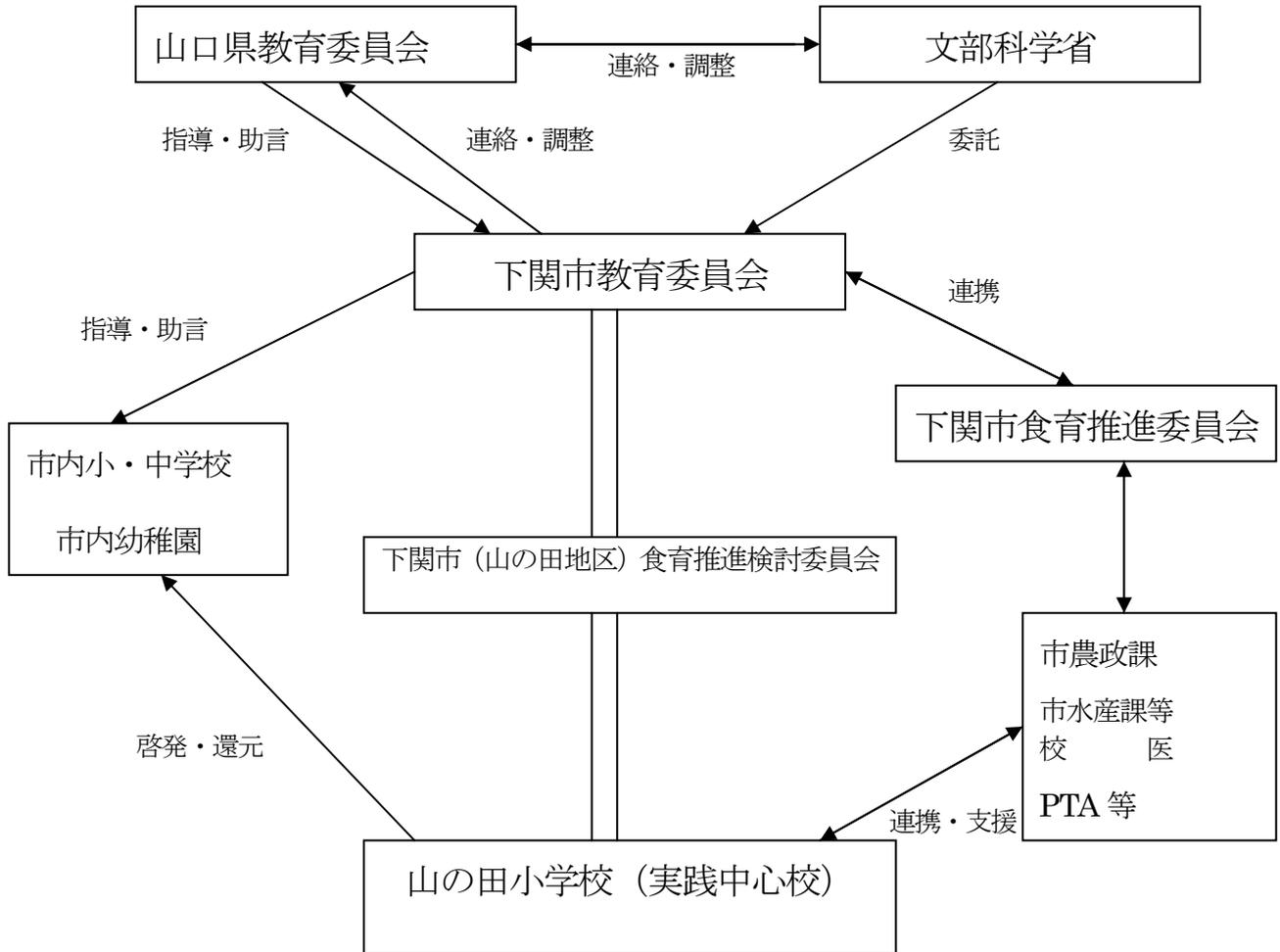
項目について「できている」「知っている」と回答している割合を比較した。

5ポイント以上の増減があったものを↑↓で示す。

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山口県
推進地域名	下関市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	各教科等における食に関する指導の充実のための取組
	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する指導に係わる全体計画に基づく授業実践や各教科における活動の支援 (栄養教諭が学年、学級での活動へ指導を行った。) 教職員への資料提供や研修を行った。 (栄養教諭が食に関する指導資料の提供や研修の計画を行った。) 健康・安全教育研修会における各幼稚園、小・中学校への資料提供 (栄養教諭が食に関する全体計画や取組の紹介を行った。) 児童への食育教室 (栄養教諭が企画し、学識経験者による指導を行った。) 児童の食生活の実態に沿っての栄養教諭による授業の実施 (生産者の協力を得て、教職員へ指導を行った。)
	<p>3年生授業風景</p> 

テーマ2

・学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組 ・家庭に対する効果的な働きかけの方策に関する調査研究

- ・ 食育講演会にて健康に対する啓発
(栄養教諭が計画の立案、講演者との連絡調整、当日までの準備を行った。)
- ・ 試食会の実施、食育だよりの発行、親子料理教室の開催等による啓発
(栄養教諭が企画し、教職員やPTAの協力で準備・実施した。)
- ・ アレルギー児、肥満傾向児、偏食児やその保護者への個別指導の実施
(養護教諭や担任との連携によって行った。)
- ・ 学校保健委員会を通じて学校医や市の保健部との連携の強化
(栄養教諭が食育に関する保護者の疑問や質問の収集やとりまとめなどを行った。)
- ・ 市主催の食育フォーラムにて啓発
(栄養教諭が食育に関する保護者の疑問や質問の収集やとりまとめを行った。)

親子料理教室 (夏休み)



家庭に対する効果的な働きかけについては次のような調査研究を行う。

- ・ 学校から家庭に定期的に発行する給食だよりや食育だよりの記載内容について反応を求めた。
- ・ 学校給食の「がんばりカード」長期休業中の「いきいき山の田っ子」を通して、家庭の食生活の意識を高めた。
- ・ 市の食育推進の目標に沿った各家庭における意識と食生活の改善の状況把握を行い、結果の公表及びその後の活動の方向づけを行った。

テーマ3

学校と地域との連携による食に関する指導の充実のための取組

- ・ 食育ボランティアの活用による体験学習のコーディネート
(栄養教諭が生産者や講演者の連絡調整、校内の調整を行った。)
(児童の体験学習では、生産者や農業水産関係者が講演や実演を行った。)
- ・ 地場産食材を使用した学校給食の実施
(食材の調達については、市教育委員会が関わった。)
(生産者が情報や食材そのものを提供した。)

食育活動 (2年生)



テーマ1～3に共通する具体的計画

- ・ 家庭における食生活アンケート結果や毎月の健康調査により、朝食欠食が減少した。
- ・ 朝食を摂取することの大切さについて、児童自らの意識が高まってきた。
- ・ 食事内容は、米・野菜・魚などの食品のとり方に気をつける傾向が見られた。
- ・ 学校給食の様子を試食会や給食だより、食育だよりで家庭へ知らせることにより、食への関心を高めた。

数字で変化のあった事項について

朝食摂取率の変化	平成21年4月	98.2%	→	平成21年9月	99.2%	→	平成22年3月	99.8%
給食の残菜量の変化	平成21年4月	2.4%	→	平成21年9月	2.3%	→	平成22年3月	0.2%
地場産物の納入率	平成20年度	33.0%	→	平成21年1学期	37.0%	→	平成22年3学期	45.1%

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・地域の人材を活用した食育活動の実施により、農業や漁業への関心が高まった。
さらに、学習後の感想や食育ボランティアさんへの礼状の内容から思考面や表現面における子どもたちの変容が読み取れるようになってきた。
- ・食育ボランティアによる活動や食育体験を通して、「食」への関心を高め、感謝の心が育ってきた。
- ・給食のがんばりカードや夏季休業中の個人カードにより、生活の見直しができるようになった。
- ・食に関する授業を通して、自分の健康を考えて食事をする大切さが理解できた。
- ・食育は子どもたちの望ましい食習慣を形成させるだけではなく、学校教育全体に影響があることを感じた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・朝食の栄養バランスについては、問題点のある家庭もみられるので、今後も実態に応じて家庭や地域との連携を深めていくことが求められる。
- ・アレルギー児、肥満傾向児、偏食児やその保護者への個別指導については、保護者の理解を得ながら今後とも継続する必要がある。
- ・学校給食への地場産食材を多く取り入れ、郷土の食文化について考えることができる食育ボランティアによる活動が必要である。
- ・子どもたちの生きる力を育む一つの手だてとして、学校における食育の推進をさらに図っていきたい。